

大 臣 官 次 亞 細 亞 歐 米 通 商 條 約 情 報 部 長 情 報 部 次 長 會 計 書 文 書 平 和 條 約

要再回

文書課長

文書課
長檢印

大正拾年四月廿壹日接受

97

(甲 號 用 紙)

文書課發送

大正拾年四月廿壹日發送済

淨書

正校(原稿)

淨書

淨書

淨書

主 管 情報部第三部

主任

(起草大正十年四月十九日)

機密 普通 第四九號 大正十年四月廿一日附

附屬 別紙 通

受信 人名 山梨陸軍次官

發信 人名 植原次官

件名 鮑爾曼 Bigelow 夫妻

ニ對シ便宜供與方ノ件

名 込 綴

今般夫人同伴 素遊セル米國人
「ポルトギーゼ」氏ハ夙昔的
著名ノ著述家トシテ知ラレ已ニ

公 信 案

外 務 省

本邦ニモ三回素遊セル米國人アリ今
次東洋訪問ノ目的ハ主トシテ我道
各地ノ實情ヲ踏査シ其感想
経テラシメテ一書ヲ著シ平明ノ
叙述ヲ以テ弘ク米國讀書界ニ
我真相ヲ紹介セシトスルニアルカ
知リ依テ其ノ旅行計畫ヲ南
シニタル當時在桑港帝國總領
事ヲシテ斡旋セシメ表面及
同氏ニ對シテハ東洋汽船會社ノ

(皮脱用紙)

好意ニ因ルノ態ヲ以テ同氏^{同氏}隨旅
行中ノ便宜ヲ圖ルコト、此ノ内實ハ
当局ニ於テ出^出未^未得^得ル限^限リノ便宜
ヲ供^供與^與ハスルコトニ夫^夫、内^内議^議ヲ遂^遂分
彌^彌々其^其ノ未^未遊^遊ヲ觀^觀タル次第^{次第}ニ
有^有之^之ハ

同氏夫妻ハ日下^{日下}台灣視察旅行
中ノ如^如未^未也^也月七日^{七日}一^一旗^旗歸^歸京^京ノ
上^上直^直テニ朝^朝鮮^鮮滿洲ヲ經^經テ青^青丹
島ニ赴^赴クハキ^キ予^予定^定ルニ^ニ事^事ニテ

外務省

台灣總督府^{台灣總督府}朝鮮總督府^{朝鮮總督府}南
東廳^{南滿州鐵道會社}等ニ於^於テ天^天下^下
ノ事^事ニ便宜^{便宜}ヲ與^與ハ^ハ居^居ル次第^{次第}ニ
ニ就^就テハ同氏夫妻^{同氏夫妻}山東^{山東}地方^{地方}旅行^{旅行}
中^中ニ每^每賃^賃車^車費^費方^方ヲ給^給付^付セラ
シ候^候以外^{以外}諸^諸事^事ニ極^極力^力特^特ニ便宜^{便宜}
ヲ与^与ヘラシメ度^度青^青島^島東^東洋^洋鐵^鐵道^道本^本館^館
其他^{其他}由^由係^係ノ向^向ヘ夫^夫、可^可然^然由^由内^内務^務
省^省方^方由^由配^配屬^屬ヲ得^得度^度此^此段^段由^由依^依
頼^頼申^申進^進ス也^也

(成 読 用 紙)

追 函

由参考ノ為メ同区経歴性御向ニ
由ニル在自育能州總領事報告
摘要添附致ル由由査閲相成
度尚同区旅行中ニ当者若
クハ満鉄ヨリ同行者ヲ附スヘ
キ筈ニ付右由由相成度併
セテ申上

(別添其儘添附ス)

外 務 省

外務省
廣田重光及殿

REEL No. 1-0196

0110

神
向鴻須崎町
田下義雄

REEL No. 1-0196

0111

清江の書翰は
元禄の月より台湾橋
打中より川口氏に奉
一才一才の書翰の名
君十八日より京都視
察の書翰より九
名よりなるものあり
書翰の白紙に
之の書翰は君の書
某海軍の書翰
朝野の書翰
初めより書翰
の白紙の書翰
は書翰の書翰
を
之の書翰
書翰の書翰



REEL No. 1-0196

0112

満鉄子

朝鮮、関東、在満領子、
陸軍(青島) 済南領子
～依頼、通報、下

満鉄の報告
～因

旅費の支振

四月五日
満鉄支社にて面談し
ピヤロ、氏、満鉄山東旅行社に打合
石井 成一

南滿洲鐵道株式会社

大 次 官 臣
亞 細 亞
歐 米
通 商
條 約
情 報 部 長
情 報 部 次 長
會 計 事
文 書
平 和 條 約

再 回

文書課長 松原
大正拾年四月廿六日接受

文書課發送 大正拾年四月廿六日發送済

主 管 情報部第三部 主任

(起草大正十年四月十九日)

淨世 (甲) 正校(原稿) (乙) 淨世 (丙) 淨世 (丁) 淨世

(甲) 號用紙

報 機密 第八〇號 大正十年 四月廿六日附 別紙 書 通

受信 人名 別紙記載之向 發信 人名 内田大臣

件名 便宜供與方件
Dorloney Bigelow 夫妻ニ對シ

今般夫人同伴ニ來遊セル米國人
ガルトニヒゲローニ氏ハ夙ニ吾界の
著名ノ著述家トシテ知ラレ已ニ

公 信 案 外 務 省

本邦ニモ三田來遊シタルニアリ人々
東洋ノ訪問ノ目的ハ主トシテ我殖
民地ノ實情ヲ踏査シ其感想経
テヲ纏メテ一書ヲ著シ平明ノ叙
述ヲ以テ弘ク米國讀書界ニ我
真相ヲ紹介セリトスルニアルカ如ク
其旅行計畫ヲ南込ニタル當時
在柔佛總領事ヨリシテ轉送セシメ
表面及同氏ニ對シテハ本邦ノ
事情ヲ詳知スルニ能ハシテ

諸好社

(皮紙用紙)

同氏旅行中ノ便宜ヲ圖ルニ付、
申事本者、於テ出来得ル限リ
便宜ヲ供與スルニ付、夫々内儀
ヲ逐テ瀟々其来遊ヲ觀タレ
次第ニ有之

同氏夫妻、目下台湾視察旅行
中ノ処一應帰京ノ上、
別紙旅程表ニ據リ、朝鮮、滿洲
及山東省視察ノ豫定ナルニ
就テ、同夫妻貴地立寄ノ節、

外務省

出来得ル限リ便宜ヲ供與相成
度、案内旅館其他、
船鉄ニ於テ便宜ヲ計リ隨行者
ヲ附スルニ付、相成居ニ希右様
而了知相成度、此中ノ事也

貴同人ノ経歴性向ニ當テ
在日育能時、増設ノ報告摘要
由参考ノ途ニ付附致シ也

別添の如ク、
二種各一
ニ付附ノ事

(皮脱用紙)

記

在安東 入江領事

在奉天 赤塚領事

在遼陽 佐藤中務代理 本島領事

在鉄嶺 根津領事代理

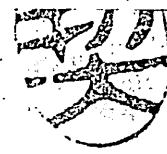
在濟南 森領事

免(各通)

外務省

0117

REEL No. 1-0196



第 4920 号

附屬書類添附

大正拾年四月廿七日 接受

官文第 四九九 號

情報部

第三部

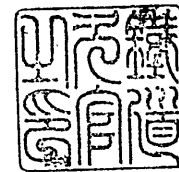


鐵道省

2/41

大正十年四月二十六日

鐵道次官 石丸重美



外務次官 植原正直 殿

本月五日報三機密送第四號ヲ以テ御送付ニ係ル米國著述家ブールト
ニ一、ピゲロー氏ニ無賃乗車證發給方ニ關スル添付書類用濟ニ付別
紙ノ通り及御返戻候

一、生活状態及嗜好

「ヒケロー」氏ノ住居ハ紅毛市ヨリ約百哩ノ「ハドソン」河上流西岸

Waldheim-on-Hudson

ナル一小有裕ニ在リ其家屋ハ同氏ノ殿父ノ

生レタル所ナル由ニテ同氏ハ舊時ノ風俗未ナクナル生活状態ニ對シテ大ノ
憧憬ヲ有スルカ如ク其家屋モ舊式ノ木造ノ小屋納ナルヲ些少ノ手入レノ
外ハ百年前ノ舊屋ノ風俗存シ「ステーキムビーツ」「フアーネス」然キ
ハ家ヨリ水台、湯屋等モ之ヲ備ヘス然火ハ石油「ランプ」又ハ煤火ヲ以
テシ出入ニハ自動車ヲ備ヘス乗台馬車ノ如キ貴重ナル馬車ヲ有スルノミ
又其室内ニハ馬車馬ノ外午、草履ヲ取替シ燃料ハ其ノ所有ノ山林ヨリ自
身之ヲ切出シ米ルカ如キ原始的状態ニテ穀類ノ如キ經濟的ノモノハ一人

モナク夫人及夫人ノ妹ニテ活潑勤志等一切之ヲ引受け居ル次第ナリ、

「ヒケロー」氏ハ自身モ亦タ労働ヲ爲スヲ以テ愉快トスルカ如ク其平素
ノ娯樂ハ傍屋庭夫ノ用ユル藍色木箱籠ヲ着シ木製ノ靴ヲ穿テ居リ一見村
夫子ノ裁アリ、而カモ其語ル所ハ古今東西ニ亘リ有ラユル問題ニ付キ極
極ノ議論ヲ上下シ其學識經驗ノ該博ナルヲ示シ繼テ談話ニ倦カハ忽チ同
座リテ「ピアノ」ヲ彈奏シ初メ音楽上ノ修養亦淺カラサルヲ窺ハシムル
ト云フ有様ニテ餘程羨リタルモノナリ、又「ヒケロー」氏ハ原則トシテ
肉類ヲ食ハス又タ石炭ヲ用キス右八十年前印度旅行ノ際同國ノ哲學者ト
邂逅以テ交ノ事ナル由。

「ヒ」氏夫人モ亦ル三月同行乗車ノ名ナルカ同夫人ハ年餘五十餘、元來
英國人ニシテ其知識メテ質素、學止モ極メテ敏敏カニシテ所謂社交界ノ

ノ如人トハ全ク違フ異ニス、而カモ向天人ハ甲々字種アル人物ト見ヘ
「ビ」氏ト各種ノ官能ニ賦キ賦斷ヲナシ又其語ニ巧ナリ。向夫人ハ榮
貴者ニ非ス。

二、主張及ビ傾向

「ビ」氏ノ主張ハ一言ニシテ旨ヘハ斷健實ナル「ビ」ニリタン」ノ持
統ヲ維持スルニ在ルカ如ク其學天給自然ヲ尙ヒ現代米國人ノ文明ヲ歌
頌且ツ人爲的ニ造タルモノトシテ改竄スルヲ常トシ諸事保守的ノ傾向
アリ、然共宗教ニ賦シテハ極メテ自由ナル見方ヲ示シ其主義ニ由シテ
モ何等強迫ヲ有セス則宗教カ他ノ宗教ニ比シテ特別優リタルモノニ非サ
ルコトヲ公言セ且ツ其歴史ニ於テ異教者ヲ彈劾シタル事例多カリシヲ
懐疑シ杜ツテ所願宜敷制ニ對シテハ甚シキ疑懼ヲ蒙キ居リ彼等ヲ以テ

自給ニ盡キタルモノト見レ一級ニ傳道運動ヲ非難ス又「カソリク」教
徒ニ對シテハ一層大ナル反感心ヲ有シ彼等ヲ以テ國家社會ヲ亂ルモノト
尙敬シ非難録ス所ナシ。向夫又向氏ハ米人富豪ノ常トスル慈善、教育等
ノタメニスル寄附行爲等ヲ善ハス、是レ他ニ名譽ノ水メ數無キ平民ニ於
テ行ハル、國家心満足ノ一方ニ是ニ對キス米國ノ組織的進歩的的施設ニシ
テ向ホ大ニ缺クル所アルニモ不尙富豪等ハ國家心ノ爲メ巨大ノ資本ヲ集
積ニ固定スルモノナリトシテ之ヲ攻撃ス殊ニ向氏ハ米國警察制度等ニ如
方警察ヲ不能ナリトシテ賦賦シ此不備ヲ俟フ爲メニ組織セラレタル *New*
York State Troopers (新義警察團) 組織ニ多大ノ「インテレスト」ヲ
與リ自身其ノ「キャップレン」ノ職ニ任シ居レリ、「ビ」氏ノ主張傾向
ハ大體向來ノ通りナルヲ以テ所謂「デモクラシー」ニ對シテモ極メテ激

免ナル京新ナ有シ「デモクラシー」カ「モツブール」トナルニ非サ
レハ行ハレ、其モモノナルヲ説ハ本國知事ノ田本 *Representative Report*
*Leavenworth*ニ在リタルニモ不尠。其後奉命ノ使臣ハ是ニ東京郵船ナキ奈邊
ノ歐法ニ似ケルモノナリトス。

三、日本へ渡来ノ郵船及日本ニ到スル京解

「ビ」氏カ日本ニ渡来セルハ千八百七十五年、千八百九十八年、千九百
十年ノ三回ニシテ今回ノ歐航ハ第四回自ノ企圖ナリト、第一回渡航ハ「
エール」大學生在学中郵船ヲ智シ候發ノ爲メ世界一途ニ出發ケタルモノナ
ルカ歐航ニ乗シテ非ニ渡来ノ歐航其港口ニ於テ郵船シタル種類アリ、開
航行ノ歐ハ評定ニ本邦ハ工ヨリ候待ヲ要ケ白蘭ノ一青年ナリシニモ不尠
無田宿、歐航往還。大隈、高橋等ノ諸名士トモ食ノ談會ヲ爲タリト云フ

第二回千八百九十八年ノ旅行ハ郵船「タイムス」通信員トシテ比魯英ニ
往ク途中立寄りタルモノニシテ大隈、高橋、日本ニ在セリトノ事ナリ。第
三回千九百十年ノ旅行ハ郵船「ニ」行ノ途次ナリシ由ニテ英歐諸國ヲ日本
ニ往セリトノ事ナリ。「ビ」氏ハ第一回行日下歐航比トノ少年時代未開
京師ノ某地ニ於テ同シ候ニ郵船シタルコトアリ、歐航今日ニ至ル迄昔債
ヲ絶タス、白不ニ至ク時ニ向凡ノ世帯ヲ受ケタリトノ事ナリ。
同航ノ日本ニ到スル郵船ハ未タ其目的ニ之レヲ開クヲ稱サルモ多クノ好
意ヲ示シ今回ノ歐航ノ結果者越スヘキ一書ニ於テ就其由ヲ説明スル者ナ
ルカ如ク最近郵船ニ於ケル郵政事情ニ澤太占領ノ如キハ之ヲ當然ノコト
トスルノミナラス進ンテ我ノ之ヲ備有スルニ至ルヘキヲ指點スル旨ヲ述
ヘタリ。

「ビ」氏ハ千八百五十年紐育ニ生レ其父 John Bigelow ハ「リンコン」時代ノ陸海軍公使トシテ種メテ有名ナル人物ニシテ十歳年前九十餘歳ノ高齡ヲ以テ没セリ、「ビ」氏ハ幼年ノ折父ニ伴ハレ巴里ニ赴キ其後千八百六十七年父公使ノ職ヲ辭シ家返リ伴ヒテ信林ニ移ルヤ同氏ハ同地ニテ教育ヲ受クル事トナリ當時十四、五歳ノ少年トシテ「ワイルヘルム」ニ出テ學友アリシ事アリ、其後「ワイルヘルム」トハ永年親密ノ間柄ナリシモ親戚皇帝カ「キール」運河開鑿ヲ初メトシ漸次海上政策ヲ行フニ至リ遂ニ意見ノ齟齬ヲ生シ「ビ」氏ノ著述發奮ノ氣ニ入ラサル事アリシト見エテ遂ニ交際ヲ絶ツニ至レリトノ事ナリ、斯クテ「ビ」氏ハ獨逸ニ於テ普通教育ヲ終リ米國ニ歸來後「ニール」大學ヲ卒業シ更ニ「コロ」

「ビ」大學ノ法科ヲ卒業シ 其後ハ世界各國ヲ旅行シ著述家論議者トシテ有名ノ人物トナレリ、詳細ハ米國 "Who's Who" 参照アリタシ

五、米國文壇ニ於ケル地位及著述

同氏ハ米國ニ於テ西歐諸國、歴史、國民其他時局問題ニ關スル評論家トシテ有名ナル老大家ノ地位ヲ有シ最近ノ著書ハ刊レモ獨逸ニ關スルモノニシテ *germanic, Russian Proverbs, Russian Proverbs, Russianism and Religion* 等ノ三部アリ其ニ最近時局問題ニ付キ一書ヲ成稿スヘク又日本ニ關シテ上ハ日本ノ國民的屈辱ヲ研究シ一書ヲ著ス計畫ナリト云フ、又同氏舊來ノ著書ハ多ク亦、英語ニ譯サレタリト云フ。

六、著作ニ就テノ注意

「ビ」氏ハ上記ノ通り其嗜好「ビ」ニシテ「リ」的乃至英國人的ニ

シテ現代ノ米國風トハ反ノ旨ハサル點アリ、又其學識、經驗極メテ國際
的ニシテ「フロンピンシアル」ナル普通米人トハ甚タ異ナル點アルヲ以テ
同氏日本渡來ノ際曾テ戲々行ハレタルカ如ク單ニ實業家トシテ發シテ
ル^其難^大進ヲ爲スハ考物ナルヘシ、寧ロ政治家、中人、新聞記者、著述家、
乃至門地高キ貴族ヲシテ應對セシムルヲ可トスヘシ、「トビ」氏ハ殊ニ歴
史的題目ノ取扱ニ敏レルヲ以テ徳川家建公爵ノ如キ般モ高キ門地ト雖見
テ有シ且ツ英語ニ堪能ナルモ士ニシテ同氏ヲ引接セラレ歴史的背景ニ於
テ本邦ヲ能ク了解スルノは曾テ與フルニ於テハ裨益少カラサルヘシト信
ス。

大 次 官 臣
亞 細 亞
歐 米
通 商 條 約
情 報 平 長
情 報 部 次 長
會 計 書
文 書
平 和 條 約

要再周

文書課長

公 信 案

大正拾年四月廿七日接受

(甲) 號用紙

文書課發送

大正拾年四月廿七日發送

淨書

正(原稿)

(淨書)

主 管 情報部第三部

主 任 (起草大正十年四月廿九日)

機密 第二九號 大正十年四月廿七日附

附屬 彌紙通

受信 滿鉄東京支社

發信 内田大臣

人名 野村社長

人名

件名 米國人ビゴロ一夫妻ニ對シ
便宜供與了件

名 込

本件ニ實シ四月十三日附報三送

ニニ早シテ中進呈ハル

ビケロ一氏夫妻一台灣視察

公 信 案

外 務 省

五月七日一德場京ノ上大体
別紙旅程表ニ據リ朝鮮滿
州及山東省ノ各地ニ巡遊視察
者ノ予定ニ有之ハニ付朝鮮
總督府及山東龍鳳陸軍省ニ對
シ今回重々別紙寫ノ通り
並ニ在南滿州及濟南ノ各領事
ニ對シ去々便宜供與了依頼致
置ト由山東省一帯ノ流車等
集復借券力由陸軍省

(成號用紙)

布清給方依款取軍中向右様
市了知相成度此段申進也

別紙朝鮮海軍由東長官陸軍省
為機密信寫及

別表具其添附
通而一行ニ封スル山東省(帶)

汽車每賃車優待券其由ニ寄シ
三月目下陸軍省ト交渉中ニ有
之付右為合申候也

外務省

REEL No. 1-0196

0125

大臣 次官 亞細亞 歐米 通商 條約 情報部 情報部長 人事 會計 文書 平和條約

要再

文書課發送

公信案

大正拾年四月廿七日發送

大正拾年四月廿七日發送

正校(原稿)

(淨世)

(甲號用紙)

主 管 情報部第三部

主 任 (起草大正十年四月廿五日)

機密 第二六九號 大正十年四月廿七日附

附圖 別紙 通

受信 人名	青森朝鮮總督 山縣南東長官 中津陸軍次官
發信 人名	内田大臣 埴原東海
件名	普國人ビゴ一區夫妻ニ對シ 便宜供與方件

本件 函之四月十三日附報三合送中
 五七四号 陸軍省未 四月廿七日附
 報手帳案第 四九号 以下

申述 置小 処ビケロ一區夫妻ハ台
 灣視察ヲ了スル五月七日一往帰
 京ノ上大体別紙旅程表ニ據
 リ朝鮮 滿州及山東者ノ各地
 巡遊視察スルノ予定ニ有之今
 般南滿州鐵道株式会社ノ好意
 ニ因リ同夫妻旅行中ニ隨行者
 ヲ附シ案内宿泊其他ニ南ニ用
 向萬事 同社ニ依リ便宜取計
 相成候ニ付テハ同人等

(戊辰用紙)

ヨリ何等物出アツタル節ハ
買入ニ於テモ出来得ル限り便宜
供與相成棉致度各南係ノ向ハ
可然申通達方相煩度此段重
不テ申依頼申進ル也
陸軍省ノシ

進テ前信申進軍ハ流車毎集
備借券方ハ随行者有テモ
申様ノ申取扱テ度ト度也
希御事ニ付之申取扱相煩
度あり依頼申進ル

外務省

別表一部
其終添附ノ下

「ヒゲロ」氏夫妻朝鮮及山東省視察旅程豫定表

五月十日 東京 發
 十一日 下關 着 發
 同日 釜山 着
 十二日 同地 發
 十三日 京城 着
 四日間滞在視察（仁川ヲ含ム）
 十七日 京城 發
 安東其他沿線視察（新義州一泊）
 十九日 奉天 着
 奉天以南沿線並大連旅順等視察

外務省

二十七日 大連 發
 二十八日 青島 着
 山東鐵道沿線及濟南視察ヲ了ヘ船便次第神戸へ直航
 歸京

外務省

J.P. 第七二二號

東洋汽船株式會社

外務省 庶務課 郵務課 郵客課

情報部次書

第三部

第三部

拜啓

豫而得貴意候「ビゲロー」氏及夫人御來朝ニ付紐育ヨリ榮港迄一等鐵道賃金及寢臺車料弊社立替ノ金米貨參百七拾八弗八拾八仙及桑港横濱間春洋丸一等賃金御一名參百弗宛ノ五割引合計金六百七拾八弗八拾八仙也邦貨換算額壹千四百拾圓六拾六錢也何卒御支拂被成下度別紙英文書狀相添御請求申上候

大正十年四月廿九日

敬具

追テ本文換算率ハ四拾八弗八分ノ一ニ有之候

大正十年四月廿九日

COPY

TOYO KISEN KAISHA.

New York, February 2, 1921.

Mr. K. Doi, Esq.,
Toyo Kisen Kaisha,
625 Market Street,
San Francisco, Calif.

Dear Sir:-

Re: Mr. & Mrs. Bigelow, cabin 3 per
SS "Shinyo Maru" March 16 to Yoko.

With reference to your letter of January 11th, we have been in communication with Mr. Bigelow, and he has decided to positively sail by the above steamer, therefore, we have arranged for him railroad transportation from New York to San Francisco as follows:

Fare from New York to San Francisco	\$120.59	
" " " "	120.59	
Extra fare on Lake Shore Limited (NYC)	6.48	
" " " "	6.48	
Drawing Room from New York to Chicago	34.02	
Drawing Room from Chicago to S. F.	90.72	\$378.88

We have also issued our passage order in favor of Mr. & Mrs. Bigelow to occupy the accommodation quoted above in the amount of \$600.00

Mr. Bigelow will leave New York on March 9th via the Lake Shore Limited arriving in Chicago at 4 P. M. March 10, leaving Chicago via Overland Limited that evening and will arrive at yours 1.30 P.M. March 13.

The above for your information.

Yours faithfully,

TOYO KISEN KAISHA

(Signed) K. Tamaki,

Assistant Manager.

REEL No. 1-0196

0130

電信課長



主場三

大臣

次官 植

✓ 386 平

台北券 本海着

大正十年四月

三月九日 右四三〇
三月九日 右一〇〇〇

内田外務大臣

山崎世記生

亞細亞

歐米

通商

條約

情報

人事

會計

文書

平和條約

情報部宛

各地に於て多大の便宜を蒙り、ビゲロー夫妻は
至極満足に視察を遂げ、就てハ豫報
通り五月二日当地を去り七日入京十日朝会
ヲ出席スルハキニ付右両取らアリクハ滞り三日
内ハエリオット大使ノ午餐ニ招カル以外何
等豫定無し尚總督府今圓ノ斡旋ニ対シ
然ルハク谢意電報ヲ呈スルハ取計ヲ得ル好

都合ナリ

0131

電信課長



大臣

次官

亞細亞

歐米

通商

條約

情報

人事

會計

文書

平和條約

6428 平

内田外務大臣

山崎素紀生

台内長 本署長 本署長 四月三日 台内長

事情

情報部宛

在支事團公使「レ」氏より四月十九日接更、本
面「レ」ハ「レ」ビ「レ」夫「レ」事「レ」他「レ」信「レ」憑「レ」し「レ」故「レ」セリ
「レ」ビ「レ」「レ」口「レ」公「レ」使「レ」ト「レ」旧「レ」交「レ」原「レ」若「レ」し「レ」旅「レ」程「レ」ニ「レ」差「レ」障
リ「レ」タ「レ」ハ「レ」船「レ」誤「レ」送「レ」ト「レ」キ「レ」意「レ」向「レ」ニ「レ」見「レ」更「レ」ケ「レ」ル「レ」モ「レ」本「レ」旨「レ」
対「レ」シ「レ」テ「レ」右「レ」ニ「レ」我「レ」植「レ」民「レ」地「レ」視「レ」察「レ」ノ「レ」目「レ」的「レ」ト「レ」直「レ」橋「レ」ノ「レ」関
係「レ」ナ「レ」キ「レ」旅「レ」程「レ」ト「レ」加「レ」ハ「レ」旅「レ」リ「レ」日「レ」程「レ」作「レ」製「レ」上「レ」種「レ」々「レ」新

文
レ
レ
ス
レ

合モ「レ」ハ「レ」レ「レ」一「レ」ニ「レ」本「レ」旨「レ」ノ「レ」意「レ」見「レ」ニ「レ」信「レ」フ「レ」キ「レ」旨「レ」申「レ」出「レ」シ「レ」ソ「レ」リ
依「レ」テ「レ」本「レ」旨「レ」ノ「レ」申「レ」希「レ」望「レ」ト「レ」ア「レ」ル「レ」旅「レ」程「レ」ニ「レ」必「レ」ず「レ」採「レ」取「レ」セ「レ」モ「レ」未「レ」だ
ニ「レ」得「レ」ル「レ」ハ「レ」毛「レ」頭「レ」等「レ」迄「レ」慮「レ」ヒ「レ」テ「レ」必「レ」ず「レ」モ「レ」当「レ」地「レ」ニ「レ」テ「レ」青
島「レ」等「レ」神「レ」戶「レ」等「レ」船「レ」便「レ」表「レ」古「レ」月「レ」分「レ」明「レ」示「レ」す「レ」真
日「レ」程「レ」ヲ「レ」精「レ」細「レ」シ「レ」テ「レ」五「レ」月「レ」六「レ」日「レ」神「レ」戶「レ」入「レ」港「レ」上「レ」取「レ」調
手「レ」配「レ」ス「レ」ル「レ」方「レ」ノ「レ」如「レ」ク「レ」未「レ」だ「レ」シ「レ」ル「レ」所「レ」然「レ」ラ「レ」ハ「レ」口「レ」公「レ」使「レ」ニ「レ」対
シ「レ」テ「レ」答「レ」答「レ」シ「レ」テ「レ」信「レ」セ「レ」ズ「レ」事「レ」案「レ」内「レ」置「レ」ノ「レ」上「レ」ノ「レ」ト「レ」ト
致「レ」ス「レ」レ「レ」ト「レ」ノ「レ」下「レ」ヲ「レ」終「レ」ス「レ」此「レ」際「レ」精「レ」細「レ」シ「レ」テ「レ」旅「レ」程「レ」ヲ「レ」更「レ」更「レ」ス「レ」
方「レ」ノ「レ」如「レ」ク「レ」ハ「レ」存「レ」在「レ」ス「レ」モ「レ」如「レ」果「レ」シ「レ」テ「レ」ハ「レ」濟「レ」南「レ」以「レ」後「レ」ハ
未「レ」だ「レ」ノ「レ」計「レ」算「レ」ニ「レ」在「レ」テ「レ」ノ「レ」自「レ」由「レ」旅「レ」リ「レ」ト「レ」ス「レ」キ「レ」也「レ」又「レ」未「レ」だ「レ」

東市四行、形トス、キヤ、惣共、都合モリ、此集、辨ニ
三、分、給、シ、ル、為、念、結、刑、餘、地、ヲ、存、シ、立、キ、ル、由、并
ニ、分、西、及、何、ノ、義、修、智、所、奉、存、シ、以、テ、中、電、事、亦
成、リ、シ、

甲

米國政治評論家トシロウ大妻島林視察日程

甲

月日曜	時	著	時	備	考	宿泊所
八月廿一日	前九	高雄	後六			港屋余
八月廿二日	九	屏東	前二			
八月廿三日	九	高雄	後六			
八月廿四日	九	屏東	前二			
八月廿五日	九	高雄	後六			
八月廿六日	九	屏東	前二			
八月廿七日	九	高雄	後六			
八月廿八日	九	屏東	前二			
八月廿九日	九	高雄	後六			
八月三十日	九	屏東	前二			
八月三十一日	九	高雄	後六			
九月一日	九	屏東	前二			
九月二日	九	高雄	後六			
九月三日	九	屏東	前二			
九月四日	九	高雄	後六			
九月五日	九	屏東	前二			
九月六日	九	高雄	後六			
九月七日	九	屏東	前二			
九月八日	九	高雄	後六			
九月九日	九	屏東	前二			
九月十日	九	高雄	後六			
九月十一日	九	屏東	前二			
九月十二日	九	高雄	後六			
九月十三日	九	屏東	前二			
九月十四日	九	高雄	後六			
九月十五日	九	屏東	前二			
九月十六日	九	高雄	後六			
九月十七日	九	屏東	前二			
九月十八日	九	高雄	後六			
九月十九日	九	屏東	前二			
九月二十日	九	高雄	後六			
九月二十一日	九	屏東	前二			
九月二十二日	九	高雄	後六			
九月二十三日	九	屏東	前二			
九月二十四日	九	高雄	後六			
九月二十五日	九	屏東	前二			
九月二十六日	九	高雄	後六			
九月二十七日	九	屏東	前二			
九月二十八日	九	高雄	後六			
九月二十九日	九	屏東	前二			
九月三十日	九	高雄	後六			
九月三十一日	九	屏東	前二			
十月一日	九	高雄	後六			
十月二日	九	屏東	前二			
十月三日	九	高雄	後六			
十月四日	九	屏東	前二			
十月五日	九	高雄	後六			
十月六日	九	屏東	前二			
十月七日	九	高雄	後六			
十月八日	九	屏東	前二			
十月九日	九	高雄	後六			
十月十日	九	屏東	前二			
十月十一日	九	高雄	後六			
十月十二日	九	屏東	前二			
十月十三日	九	高雄	後六			
十月十四日	九	屏東	前二			
十月十五日	九	高雄	後六			
十月十六日	九	屏東	前二			
十月十七日	九	高雄	後六			
十月十八日	九	屏東	前二			
十月十九日	九	高雄	後六			
十月二十日	九	屏東	前二			
十月二十一日	九	高雄	後六			
十月二十二日	九	屏東	前二			
十月二十三日	九	高雄	後六			
十月二十四日	九	屏東	前二			
十月二十五日	九	高雄	後六			
十月二十六日	九	屏東	前二			
十月二十七日	九	高雄	後六			
十月二十八日	九	屏東	前二			
十月二十九日	九	高雄	後六			
十月三十日	九	屏東	前二			
十月三十一日	九	高雄	後六			
十一月一日	九	屏東	前二			
十一月二日	九	高雄	後六			
十一月三日	九	屏東	前二			
十一月四日	九	高雄	後六			
十一月五日	九	屏東	前二			
十一月六日	九	高雄	後六			
十一月七日	九	屏東	前二			
十一月八日	九	高雄	後六			
十一月九日	九	屏東	前二			
十一月十日	九	高雄	後六			
十一月十一日	九	屏東	前二			
十一月十二日	九	高雄	後六			
十一月十三日	九	屏東	前二			
十一月十四日	九	高雄	後六			
十一月十五日	九	屏東	前二			
十一月十六日	九	高雄	後六			
十一月十七日	九	屏東	前二			
十一月十八日	九	高雄	後六			
十一月十九日	九	屏東	前二			
十一月二十日	九	高雄	後六			
十一月二十一日	九	屏東	前二			
十一月二十二日	九	高雄	後六			
十一月二十三日	九	屏東	前二			
十一月二十四日	九	高雄	後六			
十一月二十五日	九	屏東	前二			
十一月二十六日	九	高雄	後六			
十一月二十七日	九	屏東	前二			
十一月二十八日	九	高雄	後六			
十一月二十九日	九	屏東	前二			
十一月三十日	九	高雄	後六			
十一月三十一日	九	屏東	前二			
十二月一日	九	高雄	後六			
十二月二日	九	屏東	前二			
十二月三日	九	高雄	後六			
十二月四日	九	屏東	前二			
十二月五日	九	高雄	後六			
十二月六日	九	屏東	前二			
十二月七日	九	高雄	後六			
十二月八日	九	屏東	前二			
十二月九日	九	高雄	後六			
十二月十日	九	屏東	前二			
十二月十一日	九	高雄	後六			
十二月十二日	九	屏東	前二			
十二月十三日	九	高雄	後六			
十二月十四日	九	屏東	前二			
十二月十五日	九	高雄	後六			
十二月十六日	九	屏東	前二			
十二月十七日	九	高雄	後六			
十二月十八日	九	屏東	前二			
十二月十九日	九	高雄	後六			
十二月二十日	九	屏東	前二			
十二月二十一日	九	高雄	後六			
十二月二十二日	九	屏東	前二			
十二月二十三日	九	高雄	後六			
十二月二十四日	九	屏東	前二			
十二月二十五日	九	高雄	後六			
十二月二十六日	九	屏東	前二			
十二月二十七日	九	高雄	後六			
十二月二十八日	九	屏東	前二			
十二月二十九日	九	高雄	後六			
十二月三十日	九	屏東	前二			
十二月三十一日	九	高雄	後六			

法政雜誌會
 山崎外務省書記長

REEL No. 1-0196

0134

甲子年正月

初十日 京都府 京都府

(2)

十一日 基澄著

十二日 神戸府

十三日 東京府

十四日 東京府

十五日 下ノ関著

十六日 堂山著

十七日 堂山著

十八日 堂城著

十九日 堂城著 (堂城著)

二十日 堂城著

二十一日 其他江崎 堂城著 (堂城著)

二十二日 堂城著

二十三日 旅順祝儀 (堂城著)

二十四日 大連著

二十五日 青島著

諸南祝事船便為神
道瓶入事道之様古の御書
方は南洋の徳之海軍例あり
子懐とて復道之徳とせん、おす
是亦祝事道之徳と申す
本之御書之上當局之徳ノ法之
天ノ了解法也

大 次 官 臣
亞 細 亞 官
歐 米 亞 官
通 商 約
條 約
情 報 部
人 情 報 部 次 長
會 計 事
文 書
平 和 條 約

平

電信課長

電信案

(丙 號 用 紙)

平 文

發 電 大 正 十 年 五 月 二 日

午 後 六 時 一 〇 分

送 電 番 號 三 七 〇 五

奉 天 經 由
長 春 經 由

管 主

情 報 部 第 三 部

任 主

(起 草 大 正 十 年 五 月 二 日)

件 名

台 灣 旅 行 中

名 込 綴

北 京 旅 行 友

受 信 人 名

下 村 孫 助 次 友
申 田 清 彦 君

發 信 人 名

申 田 清 彦

第 一 號

號

電 信 案

外 務 省

ビゲロー、氏夫妻台湾旅行中
貴府諸方面ヨリノ多大ノ便宜
ニ對シ感謝ノ意ヲ表ス

MAY 2 1927

386 平

台北券
本署着

大正十一年四月

二十九日
二十九日

主場

内田外務大臣

小崎書記生

情報部宛

各地ニ於テ多大ノ便宜ヲ蒙ルビゲルニ夫妻ニ於
テモ至極満足ニ視察ヲ遂ゲテリ就テハ豫報
ノ通り五月二日當地ニ入京十日朝本。ル
ヲ出奔スハキニ付右件取立アリク滞ル。三日
内ハエリオット大使ノ午餐ニ招カル以外何
等豫定無シ尚總督府今固ノ斡旋ニ対シ
然ルヘク謝意電報方是ヨリ取計ヲ得ル

都合ナリ

大至急

大 臣 官 長
亞 細 亞 部
歐 米 商
通 商 部
條 約 部
情 報 部
情 報 部 次 長
會 計 書
文 書 部
平 和 條 約
外 務 省
郵 書 主 任 役

文書課長 松原

大正十年五月二日 接覽

58

甲 號 用 紙

文書課發送

大正拾年五月 貳日發送濟

淨書

正(原稿)

淨書

印

管 主 情 報 部 第 三 部

主 任

(起草大正十年五月二日)

尾上

報 機 密 第 二 號

二

大正十年七月二日附

附 屬 書 通

淨書主任役

信 名

滿鉄東京支店気附
野村社長

發 信 人 名

中田大臣

件 名

米國人ビゴウ一氏夫妻ニ對シ
便宜供與方ノ件

名 込

本件ニ由シ四月廿七日附報三機審
第三九号ヲ以テ申進置以テ
今般陸軍省ト協議ノ結果

公 信 案

外 務 省

ビゲロー一氏ノ山東省視察旅行ニ
際シテ青島中備軍ニ於テ
一行ニ對シ 同地方一帯ノ汽車每隻
優待差力ヲ給付スルト共ニ案内者
ヲ附シ 青島地方附近ニ於テ●必要
ノ場合ハ自働車ヲ供與スルコト
相成候ニ付テハ 滿鮮地方ニ於テ
貴社ノ青島支店ニ於テ
右山東省ニ對シテハ 貴社ヨリ
同行者ヲ附セラレ同中備軍

上(市)談合ノ上請事便宜供與才
市配處相類度此段市名類申
進候也

(戊辰用紙)

外務省

ビロウ夫妻ノ山東省巡行
ニ對シテハ陸軍省中島中佐
ト濱合ノ上青島半備軍
ニ派テ右一行ニ對スル各員
接待力ヲ著信ニ案内者
ヲ附シ且青島附近ニ於テハ
且右申白備軍ヲ供與ツル

外務省

ハ外務省館代ヲ補信
スルコトノ協議セリ
尤モ旅館室代其他ノ便宜ニ
由テラハ半備軍ト直接協議
ヲ俟テ其程度範圍ヲ決
定スルコトセリ

五月三日

四

大正十二年九月三十日

台湾植民地

台湾植民地

鍾田外子謹言

中落ニシテ多ク氣血ノ亦静穏
ノ快観ヲ懐キ此レニテ是レハ
感也ナリ得キ其深ノ測意ヲ
表ス 乃チ曰クヨリ恩替及ル

外務省

有カテ 貴行ハ公氏ト勸ウモ
ノ法費ヲ附ノ厚意ノ存テ知リ
曲況示シ^所誕生ニ執守シタル
ニ付 貴方中
タシ(有エカニ此名節送ス)

實ニ此ノ氣血當山ノ貴方^所段々
而後遇ニ加ニ出者ニ降レ過大
ノ賜物リ^所力之^所ニ^所意外
トシ内人何カノ責任ヲ負ヒ担セ
ラレシニアラスヤト思ヒ不ハカク

又ケラシキリテ下者ト支ま車
巾見送りコトス法水細沢ノ説明
リノ用敷術ト満野祝字ニ於テ
優遇ニ期待スルコトトテハ
下カ惣智好ノ地位ニ
下カシテ此ノコトニ
人格ノ反動ト親コト減トノ
ニ堪ふるモ終何カノ喜
アラスカニ限リ
斯ニテモ何カノ期待ヲ
外務省

外務省

終小見サナシト一
如聖極満足ノ喜
其外ノ貴族ノ好
ルコト曰助ノ
方主惣智好同下
位ニ欲シ何カ
下ノ喜況トシテ
ナリシコトトテ

Copy

Boston Dear Teikoku,

show very appreciation & most
wonderful acts of kind. Japanese
hospitality have made deep in
the hearts of your two friends
— my wife and Pauline
Bischoff

外務省

Dr Shimamura Toshiro

Pray accept the grateful
acknowledgments of your many
acts of kindness to me & mine
Pauline Bigelow

from the S.S. Hong Kong
May 3rd 1921.

外務省

滿鉄庶務課石井文ト面談
ヒケロー云夫妻山東省巡遊中
滿鉄ヨリ隨行者ヲ附シ
往地宇備軍ト協議ノ上便宜
取計ノユトニ決定
ト云北京ト廻リノ件ニ商シテモ
同社ニ於テ青島同株ノ便宜
ヲ供養スルユトヤリ
ト云台博ヨリ帰来ノ爲ノ右
隨行者トモ會合ノ上詳細ノ
手配取極ムルユトヤリ

五月三十一日

外務省

電信課長



大臣

次官 佐

亞細亞

歐米

通商

條約

情報

人事

會計

文書

平和條約

6533 (平)

嘉中書

李有若

大正十一年五月

五月五日

午前

主情

由國外務大臣 田島清海軍



トビケル 氏夫妻ハ 漢軍後河軍山其他各地、
視察ニ赴キ 昨夜、大日
本、上海港ヲ試シ 李有若平出書ト来リ 途ニ
執ケリ

大 次 亞 歐 通 條 情 人 會 文 平
 臣 官 細 米 商 約 報 事 計 書 利
 臣 官 亞 米 商 約 報 事 計 書 利

文書課長

公 信 案

(甲 號 用 紙)

文書課發送

主 管

主 席 務 課 長

(起草大正十年九月三日)

淨書

正校(原稿)

(淨書)

機密 普通

第 號

大正十年九月三日

附屬書

通

受信 東洋汽船株式會社
 人名 船着保 宛

發信 外務省
 人名 情報部庶務係

件名

名 込 綴

持後陳列島月外有附外信以請求、係心以分ロー

長夫要組育要港百物運賃銀等五、要港極價百

半減船賃計案賃二七於十外十外仙站卸賃

公 信 案

外 務 省

全午要年午六物也日計小切子心戸部及運

印可案作要水、上、更銀何行四付、有於卸出者

↓

J.P.
第 七 九 號

東洋汽船株式會社

東洋汽船株式會社
船客課

外務省

情報部庶務課

御中

拜啓

本月三日附貴書正ニ拜見仕候ビゲロト氏夫妻鐵道汽船賃金領收
證別紙ノ通り封中仕候間何卒御查收被成下度
右御回答申上候

大正十年五月四日

敬具

五月五日

香港丸

山崎忠生宛



4E

山崎忠生宛

鎮外外子留書
法水翻訳書

南洋貿易科出ス

中流ノ成功ニ減ニ日養ノ至

外務省

リ

日民夫妻ノ長年^た人柄ト天才

ノ流露ニ至大ノ好印象ヲ以テ

海ニ贈セんと行ス

徳智長友ヲ微物^は日民ノ

スニ欲^は血ト敬意ノ表^は刺^は先^は非

何^はノ意味^は七^は期^は待^は七^は去^はキハ貴^は説

ノ通^はリ勿^は論^はノ事^はナリ

多事ノ際ハ印度ヲ新ニ
將來共懐智有ノ爲トモ
シテ
是レ其ノ旨也

外務省

紙 信 着 報 電

着 局		局 發				人 信 受
月 日	受取者 信	時分	字	時分	第 報 局 號	
		7 時	ハ	8 時	第 報 局 號	カ イ ク セ ウ ハ シ ラ ク ヤ
						人 信 發
						ヤ

北京行ノ件至急返電神戸
 高知支隊ニテ頼ム七日朝
 東京ステーションホテルニ投宿ス

指 定
 着 第 報 局 號

電信局長

大正十年 五月 五 日起草

同 年 月 日 附 號

主任

電信局長
至多公報

情報部第三部

主管

藤田書記官

神戸大改商船会社汽船

山崎北重汽船

満鉄ヨリ案内者ヲ附シ

満鉄ヨリ案内者ヲ附シ

外務省

汽車旅館其他

便取計

シテ満鉄ヨリ案内者ヲ

附シ汽車其他ニ在青島

備軍ニテ便宜供與ノコト

北京行ニ就テハ

ニテ何等異存ナシ

鉄ヨリ案内者ヲ附スル

電送第 3790 號
10年5月5日 午後 3 時 分

ナニカ費用ハ直ニ此ノ費用亭
望^ナ中^ナハ帰京ノ上陸議ニル
兼^ナ河^ナ年^ナト^ナ課^ナ考^ナノ^ナカ

外務省

REEL No. 1-0196

0154